

# プロムナード・コンサート報告Ⅱ

—— 来場者の声 ——

岸 啓 子

プロムナード・コンサートはセンター設置と共に始まり、2006年12月で3年を経過し、その間合計9回のコンサートを開催した。前回の報告(2004年度センター紀要)後に実施したものは以下の4回である。

2005年

《バッハ音律で聴くバッハのプレリュードとフーガ》岸啓子、宮武誠一、松本美紀

2006年

《新作能『子規』(宇高通成作)について》宇高通成(重要無形文化財能楽保持者)他

《伊予節と都都逸》山田高子

《イタリアオペラの歴史をたどって》木村勢津他

プロムナード・コンサートのコンセプトは以下の4点である。

## ① 開かれた大学・地域との交流

学内外の人々をともども対象とし、特に地域におけるセンターの役割を考慮して学外者に開かれたものであること。

## ② 学内・学外の音楽家の協働

コンサートの出演・制作には、愛媛大学の音楽教員のみならず愛媛で活躍中の音楽家の協力を仰ぎ、両者の協働のもとで豊かな音楽文化の発展をめざす。

## ③ 多様性

現在の愛媛における豊かで多彩な音楽状況を反映させ、クラシックだけではなく多様なジャンルの音楽を横断的に取り入れる。

## ④ 愛媛大学のコンサートとしての個性

教養や教育的な特徴も備えたレクチャー・コンサートとし、大学の人的・知的資源の活用を図るとともに、企画を精選・洗練し大学主催のコンサートとして独自のカラーを出す。

以上のコンセプトに加え、年度毎の主題がある。

2004年：愛媛新聞社との共催

2005年：新発見を音で聴く

2006年：声の魅力

昨年度はバッハの『Das wohltemperierte Klavier』曲集が、「平均律」か「古典音律」か、また古典音律の場合はどの音律かという長年の論争に終符を打ったB・レーマンのバッハ音律発見をもとに、バッハ＝レーマン音律で上記曲集を演奏し、その調律法を解説した。

今年のプロムナード・コンサートの主題は「声の魅力」で、能の「謡い」、郷土の民謡とお座敷文化の粹な「唄」、オペラの「アリア(歌)」と、地域・時代・文化の母体を異にし、美学・音楽様式・発声法の違う「うた」の魅力が多角的に取り上げた。今年度12月に親しみやすく柔らかいコンサートとしてスタートしたプロムナード企画第1回《ジャジー・ポップ・ミュージック》(寶村愛・山下ひとみ)では、ポップス系の歌とオリジナル曲のプログラムを組んだ。

これらのコンサート企画・運営と並行し、第2重点研究グループ第3部門では地域創成研究センターが主催する大学内コンサートのあり方について議論を重ね、よりよい方向を探ってきた。併せてセンターの資料としてコンサートのCDやDVD制作を検討し、今年度のコンサートのDVD(4タイトル計7枚)を試作した。

本稿の報告は2006年度に実施した3回のプロムナード・コンサートのアンケート結果集計をもとに行うものである。

## 1. 来場者数

第1回 37名

第2回 52名

第3回 114名 合計203名

アンケート回答者数と回収率

第1回 28名

第2回 41名

第3回 81名  
150名 回収率74%

## 2. 男女と年代

記載は、合計 (第1回, 第2回, 第3回)

男性 53名 (15, 19, 19)

女性 97名 (13, 22, 62)

10歳未満 0名

10歳代 9名 (1, 0, 8)

20歳代 19名 (4, 2, 13)

30歳代 17名 (3, 3, 11)

40歳代 25名 (5, 5, 15)

50歳代 29名 (6, 9, 14)

60歳代 39名 (6, 18, 15)

70歳代 11名 (2, 4, 5)

80歳以上 1名 (1, 0, 0)

## 3. 来場手段 (複数回答)

徒歩 25名 (4, 5, 16)

自家用車 65名 (7, 23, 35)

自転車 33名 (9, 4, 20)

原付・バイク 13名 (4, 4, 5)

バス 2名 (0, 2, 0)

タクシー 0名

市電 6名 (2, 1, 3)

郊外電車 2名 (2, 0, 0)

JR 1名 (0, 1, 0)

その他 7名 (3, 2, 2)

## 4. 愛大との関係について

愛大生 21名 (3, 3, 15)

本学教職員 11名 (2, 1, 8)

卒業生・元教職員 30名 (7, 6, 17)

小中高生 1名 (0, 0, 1)

学生・専門学校生 4名 (0, 1, 3)

上記以外 79名 (16, 29, 34)

無回答 4名 (0, 1, 3)

男女比は約65%が女性で、同種の催し物に見られる一般的傾向と合致していた。最多年代は60歳代26%で、40歳代から60歳代で6割強を占めている。参加者の年代とコンサート内容の相関は明白

で、第2回《伊予節と都都逸》では50歳代以上の年齢が約76%・四分の三を占めた。一方洋楽の第3回参加者は各年代層に均等に分布し、年代の偏りはあまり認められなかった。

愛媛大学との関係については各回異なる結果となった。第2回は学外者が73%で、愛大生・教職員・卒業生・元教職員の合計24%の約3倍にのぼった。第3回は愛大関係者・愛大生 (含む: 元・卒業生) が多く、愛大音楽科では民謡などをこれまで殆ど扱ってこなかったこととも関連していると思われる。

交通手段では自家用車が圧倒的に多く、43%あった。学内の駐車場整備にあたっては、学外者の駐車スペースが少なくとも夜間の催しの時間帯には確保されることを望みたい。

## 5. コンサート情報 (複数選択)

ミニコミ紙 11名 (3, 3, 5)

チラシ・ポスター 40名 (6, 3, 31)

HP (大学・センター) 14名 (5, 2, 7)

知人 30名 (5, 10, 15)

関係者 40名 (4, 15, 21)

その他 17名 (8, 8, 1)

無回答 2名 (0, 1, 1)

ミニコミ紙・チラシ・ポスター・ホームページ合計43%に対し、知人・関係者・出演者 (その他に記入) が50%強で、ニュートラルな情報に勝る口コミの力の大きさが明らかである。チラシ・ポスターもそれなりの効果はあったと判断できる。ちらしは2,000枚印刷し、市内高等学校・大学に数十枚ずつ持参し、各文化センター、ホール・ライブハウスにも100枚単位で置いたが、大ホール1回の演奏会で5,000~7,000枚という例もあり、今後ちらしの印刷枚数と効果的配布法については検討が必要である。出演者には100枚~300枚程度渡しているが、実感としては出演者から手渡しされたちらしは効果が大きいと思われる。

## 6. 反応と満足度

企画, 出演者, スタッフ対応, 会場・音響の4点について、①満足・②やや満足・③やや不満足・④不満足の4択で訊ねた。⑤は無回答

企 画	①	116名 (21, 31, 64)
	②	6名 (0, 1, 5)
	③	0名
	④	0名
	⑤	28名 (7, 9, 12)
出演者	①	105名 (20, 25, 60)
	②	16名 (5, 6, 5)
	③	0名
	④	0名
	⑤	29名 (7, 11, 11)
スタッフ	①	105名 (21, 24, 60)
	②	13名 (0, 6, 7)
	③	3名 (0, 1, 2)
	④	0名
	⑤	29名 (7, 10, 12)
会場・音響	①	78名 (13, 24, 41)
	②	27名 (6, 8, 13)
	③	13名 (2, 0, 11)
	④	3名 (0, 0, 3)
	⑤	29名 (7, 9, 13)

7. 前回来場者数

第2回 8名

第3回 2回11名 1回11名

8. 愛媛大学でのコンサート等の催しを実施することについて

賛 成 138名 (26, 37, 75)

どちらかといえば賛成 7名 (1, 3, 3)

どちらかといえば反対 0名

反 対 0名

無回答 5名 (1, 1, 3)

出演者・スタッフは7割、企画は8割ちかい「満足」回答があった。一方会場・音響では「満足」度は52%と大きく下がり、「やや不満足」「不満足」が1割みられる。聴き手側からの評価にもまして演者からの会場評価は厳しく、「自分の声が聞こえ難い(オペラ)」、「足拍子が響かない(能)」などの声もあり、今後の出演依頼に不安を感じることもあった。ただ、前回2004年時の様な外部からの騒音のクレームはなかった。

大学がコンサート等を実施することについては

好意的に迎えられている。この点については参加者の生の声を読んでいただきたい。

課題と今後の発展

3年間9回のコンサートを終え、ささやかな催しながら愛媛大学に定着した感のあるプロムナード・コンサートであるが、アンケートから見えてきた課題もまた多い。これまでの運営の中で感じてきた問題点とあわせてここで整理し、解決の一助としたい。

① 若い人の参加が少ない。

毎回のアンケートで必ず指摘されるのが、「若い人が少ない」、「学生さんの姿が見えない」点である。能や邦楽、民謡のコンサートではこの傾向は特に顕著にあらわれる。40歳代以上の観客層を呼び込めていること自体は評価できるにせよ、愛大生の参加が少ない点は特に残念である。大学で知的能力を高め、研究に励むことは学生の本分であるとしても、同時に文化的・芸術的体験を重ね、感性を磨き、よい趣味と教養を獲得することも、文化的な生活の実現には不可欠である。その一助となるようなコンサートの魅力的な在り方について今後検討を重ねてゆきたい。プロムナード企画《ジャジー・ポップ・ミュージック》には若い人が集まったが、プロムナード・コンサートの聴き手にスライドするかどうかはまだ不明である。

② ジャンルが限定される。

愛媛は独自の民謡があり、民俗芸能も豊かである。洋楽もクラシック系合唱、交響楽、吹奏楽、オペラ等だけでなく、ポップス、ジャズ、ロックも盛んで、特にロック系インディーズ・バンドは全国的に見てもレベルが高く、他地域に誇れるものである。ジャズも今治市が応援して育成している。愛媛に本来備わっている音楽的活況と多彩で豊かな音楽文化とプロムナード・コンサートを如何に呼応させることができるかが今後のコンサート展開の大きな課題であると感じている。施設の規模的な制約は当然であるが、それ以外にホール音響・状況・設備が原因で不可能なものも多い。こちらはホール付属設備の若干の改善によって可能となるので、今後その余地を探ってみたい。

③ ホールの音響

音楽ホールではない会場でのコンサートは音響的には厳しく、アンケートからも同様の感想が読み取れる。手持ちの資源と環境を生かす方向で実施してきており、今後も多くを望むつもりはないが、難題は音響設備である。クラシック音楽以外の殆ど全てのコンサートで現在、電気音響機器が使用され、クラシックでも大ホールでのオペラ上演等では使用されている。マイクには音声の拡大だけではない多様な目的・用途がある。複数音源のバランス、客席の響きの不均質の調整、ホール残響特質の修正等、ホール固有の音響状況を音楽的に良好な状態に近づけるのである。大学の現状ではアンプとスピーカー、マイクは会場に設置されていても会議用と音楽用では異なり、流用しても効果は期待できない。また会議用ではミキサーを使わないが、音楽では不可欠である。今後もし音楽会場に兼用される可能性のある施設の音響整備の際には、音楽のことも頭の片隅においていただけると有難い。インターネットもかつてのように無音の映像のみの世界ではなくなってきた。プレゼンテーションでも音声・効果音・BGMが取り入れられる方向にある。音響機器の質的向上を願うのは音楽家だけではなく、時間がまもなくやって来るはずである。

④ 固定客の定着

シリーズで行っているコンサートであり、ジャンル横断的にプログラムを組んでいるので企画・運営者としては常連客を定着させたいところである。リピーターは確かに生まれてはいるが予想より少なく、ジャンルが変われば顔ぶれも変わる。内容の希望をアンケートに積極的に書いてくれる人が次回も来てくれるとは限らない。アンケートを参考にしつつ固定客の増加に向けてコンサートの性格とレベル設定をより明確にし、内容を考えてゆく必要があると思われる。

聴きたいもの vs. 聴いてほしいもの

楽しみ vs. 文化的教養(広義の学び)

多様性 vs. 連続的深化・集中とこだわり

愛媛 vs. 世界

馴染みのもの vs. 未知のもの

演奏中心 vs. レクチャー

聴取 vs. 相互交流と体験

これらの左右対立項の最良のバランス点を考慮しつつ、多次元にわたるそれらの座標軸の交差点を求めて、今後もプロムナード・コンサートの方法論を洗練し、企画を充実させて固定客をふやしてゆきたい。

自由記述への回答

質問: 愛媛大学内でコンサートや芸能関係の公演をおこなうことについて、ご意見があればお書き下さい。

第1回

- \* 能には何の興味もなかったのに、前回参加して楽しく教わったのでまた参加しました。
- \* 地域の文化を支え、活性化していただき、ありがとうございます。
- \* 大学らしい学問の分野と、一般芸能らしい感覚的なものとのコラボの試みをたくさん企画してください。
- \* 非常に良い。
- \* 生演奏も聴きたいと思います。

第2回

- \* 地域に開かれた大学として大変結構な企画だと思います。
- \* 地域創成のため意義がある。今後も継続を。
- \* いいことです。
- \* 音楽は魂の自由の表現なのだから楽しい。聴きたいです。
- \* あらゆる機会に一般に門戸を開いて下さることを期待しています。
- \* 文化、伝統の継承につながり、良いと思います。
- \* 掛け軸のえびは、ていれぎの水にいる手長えびではないでしょうか。

第3回

- \* 専門的な解説付きで何か公演が楽しめたらよいと思う。
- \* あまり堅苦しくならず、気軽にこられるのがいい。
- \* どんどんあると嬉しいです。(2)
- \* 積極的に取り組んでください。
- \* ジャンルを問わずいろんな分野のコンサ-

ト、公演をしていただきたい。(2)

- \* 大学は自由の学び場だからコンサートがあるのはいいこと。むしろどんどんやるべき。
- \* これからも期待してます。
- \* 地域と大学のつながりができてよいと思います。(2)
- \* 立派な設備と駐車場があるので。
- \* もっと一般に周知されれば。会場ももう少し広いとなおよい。

質問：本日の感想をご自由にお書き下さい。

#### 第1回

- \* 能は初めてでした。とても感動を覚え、大好きになりました。7世のわかりやすい説明で。
- \* 初めて能を見ました。声に心を奪われるような感じがしました。更に周りの空気をガラッと変えるくらいの声の力に圧倒されました。舞をしている人が窓ガラスに映って見えたときは本当の霊のようで怖かったです。
- \* 新作能の解説が興味深かった。装束付け、面も前回に続きよかったです。(2)
- \* 能に対する理解が深まりました。
- \* 解説が非常にわかりやすく、興味深く、自然に力が入ってしまいました。
- \* 楽しかったです。能には興味はあるのですが接する機会があまりなかったので、今日は本当に有難うございました。(3)
- \* 以前のプロムナード・コンサートの『能』も見ました。新作能という試みにも興味があるので、解説を興味深く聞けました。
- \* 客席が階段状なので、野外の能よりよく見えました。残暑の折会場が少し暑かったです。
- \* これからも愛媛の文化についてお願いします。
- \* 能について初めて知りました。内容はとてもショックでした。カルチャー・ショック!!
- \* 装束付けなど、一般の上演では判らないところを知ることができてよかったです。(4)
- \* 後半がたいへん面白かった。新作能の着想と創造の現実、伝統的手法を生かす細部が窺えた。謡本を全文公開していただけたのは理解に役立った。皆で謡ってみたのも面白い体験でした。

- \* すごくすごく面白かった。能の意味(スピリチュアルな)を知り、びっくりした。最初おどろおどろしくて怖かったが、判りやすい語り口でよく理解でききた。短い言葉の中に深い意味が込められていたり、韻を踏んだり、日本の芸能ってすごいなあと感動した。
- \* 宇高通成師の解説がよかった。(3)
- \* 新作能の上演を観に行きたくなった。

#### 第2回

- \* 三味線の音、澄んでいた。
- \* 聴くだけでなく、唄うことで参加できたので、予想以上に良かった。
- \* コンサートということですので、自分が唄うとは思わなかった。もう少し先生の唄をお聴きしたかったです。
- \* 地方の民謡の良さを改めて知った。良い勉強になった。
- \* 非常に良かった。
- \* 大変によい時間でした。
- \* 面白く大変良かった。
- \* 先生の魅力にひき込まれそうだった。
- \* 都都逸、初めてでとても嬉しかった。良かったです。とてもすばらしいコンサートでした。またお願いします。
- \* 鼓舞する妙音奏でる楽しい時間でした。ありがとうございました。
- \* 初めてだったので興味がもてた。
- \* 高子さん、美しくチャーミングで、「伊予節」歌いたくなりました。
- \* 庶民的で、上品でとてもよかったです。
- \* 満足。共に唄ったのも良かった。
- \* ホワイトボードのペンを濃いものにしてください。
- \* 良かった。
- \* たいへん楽しかったです。
- \* アカデミックなところで座敷唄を聞く。楽しかったです。伊予節を初めて聞きました。
- \* すばらしい！ とても素敵な先生でした。
- \* 感激しました。またやってください。
- \* 伊予節はめったに聞くことができないので、とても嬉しく聞かせて頂きました。声のよさに打たれました。

- \*初めての参加です。とっても楽しかったです。日本に生まれ、日本人でよかったです。
- \*いい感じでした。
- \*時間がもうすこし短めでもよかったと思いました。
- \*なごやかな遊び心があふれて、ほっとする催しでした。
- \*故郷の民謡「伊予節」初めて、本筋の先生より習い、幸せでした。ふるさとの唄胸にじんときました。都都逸もはじめて正しく教わり、有難うございました。
- \*新しい世界を発見、垣間見ることができました。
- \*ゆったり流れる時間を久しぶりに送れ、嬉しい気持ち。
- \*本当によかった。
- \*とても優雅で美しい時間をすごすことができました。楽しかったです。都都逸は全く知らない世界だったので、教えていただいてよかったです(少し覗いた感じですが、それもよかったです)。山田先生有難うございました。かっこよくて、女っぽくて素敵なお方ですね。またお会いしたいです。
- \*粋な唄声に楽しいひとときをすごさせていただきました。(2)
- \*商業的・興行的には成り立ちにくいこうした企画を、地域に開かれた大学の大切な役割として今後も継続していただきたい。
- \*これまで「学問の府」?で無視あるいは冷遇されていた文化を正面から取り上げたことに大いに賛同します。楽しめました。

### 第3回

- \*楽しかった。(9)
- \*楽しいレクチャーだった。(2)
- \*すばらしかった。よかった。(7)
- \*判りやすかった。(5)
- \*解説が良かった。時代背景が解った。(4)
- \*『こうもり』が良かった。興味がわいた。
- \*判りやすく、ためになった。(2)
- \*オペラの歴史という企画が良かった。(3)
- \*歴史が実物でわかり、楽しかった。(3)
- \*解説と演奏がセットになっているのが良かった。

た。(7)

- \*初めて歌のコンサートを生で聴けてよかったです。(2)
  - \*歌も、ピアノも良かった。聞き惚れた。(4)
  - \*いろいろな曲が聞けてよかったです。(3)
  - \*「おじさん、やるな！」って感じ。ピアノマンも楽しそうだった。
  - \*男性が一人はさみしかったかな?
  - \*解説に映像テープがあるとなおよかった。
  - \*クリスマススムードを感じられて良かった。
  - \*生の声はいいですね。
  - \*オペラを身近に感じた。(3)
  - \*よく考えられたプログラムで満足です。
  - \*初めて聞く曲など新たな発見があった。
  - \*よいものを無料で提供されているのに驚きました。(2)
  - \*ホールが響かないので、歌う人は大変そうだなと思いました。
  - \*残響が少ないホールだったので、歌手の声そのものがよく分かって、ある意味楽しめました。
  - \*ホールの音響がよくない。ピアノと声が混ざり合って響かない。(2)
  - \*会場の規模が良かった。
- 質問：今後のコンサートや公演の企画についてご意見・ご希望があればお書き下さい。

### 第1回

- \*古典能の解説を聞きたい。

### 第2回

- \*中国、東洋
- \*ぜひ続けてください。
- \*日本の伝統芸能なども大いに企画してください。
- \*大学生の多数参加を望む。
- \*たくさんやってほしい。
- \*今日の第2回が聴いてみたいです。
- \*自分で積極的に公演を探して参加したい。
- \*いっぱい、いっぱい色々なジャンルの音楽を聴きたいと思います。無料であることこの上ない幸せ。有料でも来ます。
- \*やはり古典(日本風)のものがいいです。
- \*洋楽は聞く機会が多いのですが、日本音楽に

は接することは滅多にありませんのでこのような事をやってください。

\* 郷土の伊予万歳，宇和島さんさ，三坂馬子唄等を歴史的解説主体に。

\* またお願いします。

### 第3回

\* フラメンコやバリダンスなど世界の踊りが解説付きで見たいです。

\* 歌舞伎，民謡的なものを。

\* 合唱でこのような企画を。

\* 日本の歌を生で聴きたいです。木村先生の歌も聴きたいです。

\* 伊予の湯桁の唄と解説を聴きたい。

\* 音楽，ダンスの公演をやってください。

\* いろんなジャンルのコンサートを。(3)

\* 音楽のコンサートをぜひまた。(6)

\* こういったコンサートを沢山やってください。(3)

\* 学生も演奏に加わったコンサートを聴いてみたいです。(2)

\* 作曲家を取り上げた解説付きのコンサート。

\* バッハのレクチャーコンサートが聴きたいです。

\* 楽しみにしています。

\* 応援しています。

\* 硬い雰囲気にならず気軽に楽しめるものを。